

コース	B コース
プログラム	サンディエゴ州立大学 Intensive English Communication
渡航国	アメリカ合衆国
渡航期間	4 週間
所属学部	国際教養学部

○学校生活について

私はサンディエゴ州立大学の IEC(Intensive English for Communication)プログラムに参加した。授業は writing, grammar, communication, speaking などがあり、それぞれの授業で英語の四技能を学ぶことができた。一日三コマ、月曜日から木曜日までの週四日授業があり、宿題や課題も無理なく取り組むことのできる時間割だった。初日のオリエンテーションでレベル分けされ、自分に合ったレベルの授業を受けられたからか授業内容もそこまで難しく感じることはなかった。先生方も私たちが楽しく英語を学べるような授業をしてくださり、学業が苦痛になることはなく、先生やクラスメイトと楽しくコミュニケーションを取りながら勉強できた。また、クラスメイトも優しく愉快的な方ばかりでお互いのできないところをカバーし合ったり、他愛もない雑談をしたりと私の学校生活が楽しいものとなったのは彼らの存在が大きいと思う。しかし、やはり日本人の学生が多く、特に秋 A では ycu の学生が多く来たため日本語が教室内を飛び交っていたのは、英語学習にとってあまり良い環境とは言えなかった。

大学の授業を通して学んだことは「考えること」と「自分の意見を臆せず発言すること」である。

まず「考えること」についてだが、何の授業にせよ社会問題や身の回りの事象について考え、話し合う機会が多くあった。話し合いのお題は日本語で考えても難しい内容ばかりで、いかに自分が普段考えないで生きているかを実感させられた。自分の国で起きていることについて、世界規模で解決すべき問題についてきちんと考え、自信をもって発言できるように普段から学び、考えていくべきだと思った。

次に「自分の意見を臆せず発言すること」については、授業の中で日本人の積極性の無さを感じ、反対に他国出身のクラスメイトの間違いを恐れずに思ったことを口に出す姿勢が印象に残った。私はそんなクラスメイトに触発され、クラスで自ら発言するように心がけていた。一度発言してみるとそのあとは抵抗がだいぶ少なくなり、クラス内での発言が増えたと思う。生徒の発言に対して先生が否定することや流すことは決してなく、発言一つ一つに対して丁寧に対応してくれたことも発言することへの後押しになっていた。さらに自分が

発言することによって英語を話す機会も増え、自分にとって良い事しかなく、今後も続けていきたい姿勢となった。

○日常生活について

私のホームステイ先は大学からバスと徒歩で30分程度の場所にあり、通学にもどこかへ出掛けるにも利便性の高い立地であった。ホストファミリーは父、母、兄の三人で本当に良い家族だった。朝食は基本自分で用意し、夜は作ってくれたり一緒に作ったり、外食したりと日によって違った。昼食は代金に含まれていなかったが、家にある食材を自由に使わせてくれたため、学校のある日はほとんど毎日サンドウィッチなどを作って持って行っていた。夕食時や一緒にご飯を作る時間が最も会話ができる時間で、私にとって一番英語力を伸ばせた時間でもあると思う。学校と違い日本人が他におらず、英語しか使えない環境にいたことで「話す・聞く」の力がついたと思う。さらに、私のホストファミリーはよく「スラング」を教えてくれ、学校では習わない、よりネイティブに近い英語を学ぶことができた。また、家族が三人いたことも英語学習にとって良い環境だったと思う。自分が話していない時でもネイティブ同士の会話を聞くことでリスニングの力をつけたり、英語の表現を学ぶ機会になったりした。

家以外での生活は日本との違いを多くの場面で感じ、日本の良さを再発見したり、反対に日本にはないアメリカの良い文化を学んだりすることができた。具体的に述べると、日本の良さについては治安の良さや街の綺麗さなどである。街中で怖い経験をするのが何度かあったり、公共交通機関やお手洗いの衛生面について抵抗を感じるがあったりと、綺麗で比較的 안전한日本に住み慣れているからこそ生まれる不快感は多々あった。アメリカの良さについては他人との距離感の近さだと思う。日本では「孤育て」や「孤独死」といった孤独に関する問題が多くある。アメリカではご近所の方に気軽に挨拶をし、近況を報告していたり、街中で何の気なく声を掛けて何か楽しい事や驚いたことなどをその場にいる人と共有したりする人が多くいた。そんな風に見知らぬ人も気軽に話せて「一人ではない」ことを日常的に実感できれば、日本の孤独から生まれる問題を解決するための一つの足掛かりとなるのではないかと思った。

○最後に

三ヶ月という短い期間ではあったが、多くのことを吸収できた。サンディエゴという気候が良く、アメリカの中では比較的治安の良い場所で学べたこと、刺激をもらえるクラスメイトに出会えたこと、多くのことを教えてくれた先生方やホストファミリーがいてくれたこと、すべてが私にとってプラスとなり本当に恵まれた環境で留学生活を送ることができたと思う。本当に貴重で楽しい経験ができた濃い三ヶ月であった。

コース	B コース
プログラム	サンディエゴ州立大学 Intensive English Communication
渡航国	アメリカ合衆国
渡航期間	4 週間
所属学部	国際教養学部

サンディエゴについて

西海岸に位置するサンディエゴは、海や山などの自然を感じられる場所が多く、全体的にのんびりとした雰囲気がありました。また、メキシコと隣り合わせていて国境が近いので、メキシコの文化を所々で見ることができました。観光地の一つである「Old Town」は、サンディエゴ発祥の地でもあり、アメリカにいながらメキシコに行った気分になれるほどメキシコ文化を楽しめる場所です。タコスやブリトー等を味わえるレストランや屋台があり、週末にはメキシコ音楽の生演奏が行われるなど、街全体で陽気なメキシコの雰囲気を感じることができるため留学中何度も訪れました。(サンディエゴ州立大学から電車で 30 分ほど) また、夕日が海に沈む景色を見ることができるビーチや、ハイキングができる溪谷、海が見渡せる公園などがあり 1 ヶ月を通してサンディエゴの自然を満喫することができました。一方、野球のスタジアムやディズニーランドがあるロサンゼルスまで 2 時間ほどで行けるため、自然以外の観光も多く楽しめました。

サンディエゴ州立大学について

月曜から木曜の 9:00-14:15 までは、サンディエゴ州立大学で英語の授業を受けました。初めの 1 週間はオリエンテーションとして、他の学生と一緒に参加するキャンパスツアーやクルーズツアー、クラス分けテストや各種手続きの案内がありました。2 週目以降はテストで決まったクラスで授業を受けます。クラスは大体 10-20 人の少人数制で、グループワークが多かった印象です。Listening のクラスでは映画を観てそれに出てくる新しい単語や表現や学びました。わたしたちが観たのは「SANDLOT」という 1993 年のアメリカ映画で、物語の展開が面白く、個人的に一番記憶に残っている授業です。野球を通じた少年たちの話だったので、最終日にはみんなで野球のグッズを持ち寄って記念写真を撮りました。その他 Writing, Reading, Grammar, Communication のどのクラスでも、先生方に丁寧に教えていただき、他の国からきた留学生の人とも話す機会があるなど、学びになる部分が多かったです。横市だけでなく他の大学からも団体で来ていたので日本人の生徒が多かったのですが、中には韓国、サウジアラビア、ブラジルなどの地域から来ている人もいて、グループワークで互いの文化の話をするのが楽しかったです。一方、話の途中で言いたい単語が思いつかな

かったり、発音の問題で正しく伝わらなかったりと、自分の英語力が足りないことが悔しく感じる瞬間もありました。

ホームステイについて

留学中一番印象に残ったのはホームステイ先での思い出です。私は70歳になるホストマザーと2人での生活だったのですが、本当の家族のように接してくれて、毎日リラックスして過ごすことができました。初めの方は新しいことが多く、大学の授業で気疲れすることもありましたが、落ち着いて過ごせる場所があったおかげでホームシックにはなりません。普段横浜で一人暮らしをしている分、ホストマザーと料理を作ったり、ご飯を食べたり、テレビを観たりといったことがとても楽しく感じました。大学に行くために最寄駅まで車で送ってもらっていたのですが、その車内でたくさん会話したこともいい思い出です。私の拙い英語でも頑張ってくれて聞き取ろうとしてくれて、逆に話す時はゆっくり目に話してくれたことで、だんだんとコミュニケーションをとることに抵抗感がなくなりました。また普段の会話の中で、ホストマザーのこれまでの人生や仕事について聞く機会があり、将来について考える上で良い経験になりました。仕事を辞めた今でも、週末にヨガ教室に通ったり、パソコンでスペイン語を勉強したり、いろんな国の料理を食べてみたり、向上心や好奇心を大切にしている姿勢が印象的でした。いろんな場面で、ポジティブで前向きなアドバイスをもらい、それにいつも助けられました。

ホストマザーには特に仲の良い友人が2人いて、それぞれホームステイを受け入れていたので、3家族で集まることが多くありました。火曜日は全員で一つの家を集まって、メキシコ料理や中華料理などいろんな国の料理を食べる日だったので、毎週楽しみにしていました。留学期間に誕生日が重なったため、みんなに祝ってもらったのもとても良い思い出です。火曜日以外にも、学校帰りにビーチへ行ったり、ショッピングセンターへ行ったり、野球観戦に行ったりといった活動のたびに車を出してくれて、帰った後に暖かく迎えてくれたのが嬉しかったです。1ヶ月間のうち何日かは、友人のホームステイ先に泊まりに行くことがあり、映画を観たり、外でマシュマロを焼いて話したことが思い出に残っています。学校は金土日が休みだったので思っていたよりもホームステイ先での時間が多かったのですが、様々な経験ができ充実した時間を過ごすことができました。中でも、車で10分ほど登った先にあるMt.Helixという山の上は、街全体と夕日を見下ろす位置にあり、これまで経験のないほど広大で感動的な景色を見ることができました。ほとんど毎日違う場所へ行き、新しい経験を続けた1ヶ月はとても早く感じ、気がつくとう帰る日が近づいていました。初めは心配だったアメリカでの生活も、ホストマザー達や先生、学校で会った友達のおかげで忘れられない思い出となりました。もちろんこの期間には失敗したり、うまく英語が使えずもどかしさを感じたりと、自分の弱みに触れる経験もしました。それも含めて、自分自身のことや将来についてじっくり向き合えた学びの多い時間だったと感じています。

今後は自分の専門科目と結びつけながら、英語で文献検索をしたり、英語を使った講義を受けるなど、英語で学ぶ学習を心がけていきたいと思います。

コース	B コース
プログラム	サンディエゴ州立大学 Intensive English Communication
渡航国	アメリカ合衆国
渡航期間	4 週間
所属学部	国際教養学部

1. はじめに

私は、今年度の8月15日から9月11日の約1か月間、アメリカ合衆国に行き、サンディエゴ州立大学の英語語学研修プログラムに参加しました。かねてから、自分の英語力を向上させたい、さらに他国の文化に触れ、日本の文化との違いについて学びたいという思いがあり、留学することを望んでいました。昨年は、オンライン短期語学研修プログラムに参加しましたが、今年度は第2クォーターの時期に実際にアメリカ合衆国に行くことができました。本報告書では、参加したプログラムを通して私が学んだことについて報告させていただきます。

2. プログラムの内容

月曜日から木曜日まで授業があり、金曜日は課外授業で自由参加でした。月曜日と水曜日、火曜日と木曜日がそれぞれ同じ時間割でした。月曜日と水曜日の午前中は、あるテーマをもとに自国と他国での違いについてディスカッションをしたり、映画を見てリスニング力を鍛えながら新しい英語の表現や単語を学んだりしました。午後は、ライティングのクラスで、ライティングの構成や五感をより詳細に表現するための形容詞を学んだり、パートナーを作って、パートナーの紹介をするエッセイを書いたりしました。火曜日と木曜日の午前中は、日常で使えるフレーズを学んで会話練習をしたり、現在形と現在進行形の違いなど、文法について学んだりしました。午後は、リーディングのクラスで、長文を読んで内容を要約して発表しました。このプログラムを通して、スラングや知らなかった表現を学ぶことができました。加えて、英単語帳では目にしないような語彙も増やすことができました。また、クラスにはメキシコ人やベトナム人、サウジアラビア人の生徒がおり、ディスカッションを通して、文化面や国民性に関して日本との違いを知ることができて非常に興味深かったです。

3. 留学を通して学んだこと

たとえ英語で上手く伝えることができなくても、伝えようとする態度やコミュニケーションをとろうとする姿勢が大切であると感じました。以前は、特に自分の英語のスピーキング能力に自信がなく、英語で話すことをためらっていました。留学期間中も、英語を話すと

きに文法の正確さにとらわれてしまい、思うように話せないことが何度もありました。しかし、拙い英語ながらも自分の意見を伝える努力をしようとしたことで、相手に伝わり理解してもらったことが自信につながりました。さらに、英語を母国語とする人が話す現地の英語に触れたことで、日本にいただけでは耳にする機会がなかったであろう表現や単語をたくさん学ぶことができました。現地の方が良く使う単語や言い回しも知ることができ、自分の英語の語彙力が向上したように感じました。英単語や英語の会話表現での気付きが多く、今後生かしていくことができると感じました。また、英語と日本語の違いについても気付いた点がありました。日本語は抑揚があまりないけれど、英語は抑揚があり、感情を伝えるためにはとても大切であるということです。英語を話すときに大袈裟に抑揚をつけないと、感情が伝わりにくいだけでなく、同じ英単語でも異なった単語に聞こえてしまうことがあるため、英語において抑揚は非常に重要なものであると実感しました。日本人が英語を話すときの気を付けなければならない点であると感じました。さらに、英語圏以外の人と英語を通じて会話したことが非常に新鮮で興味深かったです。英語を母国語とする人のみならず、英語を母国語としない人が話す英語に多くの時間触れることができました。英語を母国語としない人が話す英語は自分にとって非常に聞き取りにくく感じました。しかし、世界がグローバル化している中で、英語を母国語としない人同士が英語で会話することがますます増えていくと思うので、今回の体験は非常に貴重なものであると思いました。また、日本人以外の人とコミュニケーションをとることができた唯一の手段が英語であったため、英語を不自由なく使いこなすことができたなら出会いの幅が広がると感じました。留学期間中に最も苦勞した点は、店員さんの話す英語が聞き取れなかったことです。ネイティブの英語は日本で学ぶ英語とは全く異なっていると感じました。話すスピードが非常に早いため、相手の話す英語が理解できず、コミュニケーションがうまく取れないことも少なからずありました。机上で学ぶ英語だけでなく、より実践的な英語学習が必要であると感じました。今回の留学を通して、多くのことを吸収できたとともに、今後の課題が見えたように思います。海外における英語を話せることの利点や英語を話せないことの不便さを肌身で感じたので、今後の英語学習に活かしたいと思いました。